

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域に溶け込んでいただき為に、年に一回のバザーを行っている。 ゆっくり、楽しく、一緒にをモットーにしている。 季節ごとに花見をしたり、コスモス、そうめん流しなどに行っている</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>壁に理念が貼ってあり、いつも、読めるようになっている。 管理者とスタッフが個別ケアに向けて把握し、ミーティングや日々のケアで反映されているか、全体で話し合い確認している。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>ご家族には、契約時や訪問時に説明されている。 地域の方々への説明の機会はないようです。</p>	<p>○ 地域の集まりやイベントに参加し、事業所の実践を伝えていく</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>買い物や散歩等へ行く時に近隣の人たちと会うときは、挨拶を交わしたりする。 散歩に出掛けた際に話をしたり、おすそわけを頂いたりと関係を深めている</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の一員として、行事に積極的に参加している (谷山ふるさと祭り)</p>	<p>○ 色々な行事に参加し、交流を深めていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者等の暮らしに役立つ取り組みは、あまりされていないと思われる	○	事業所で養ってきた成果を、地域高齢者のケアサービスの推進に還元していく取り組みを行っていきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で指摘を受けた点については、スタッフ全員で話し合い改善に努めている	○	外部評価の結果について、スタッフ全員で話し合い、良いところは続け、悪いところは改善に向け努力する。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、まだまだ不十分で、計画通りには実施されていないが、報告や状況の説明などは行っている。地域・家族の意見は取り入れるよう心がけている。	○	地域との交流をもつために、どのようにしていけばよいかを地域の方々とも話し合っている。今後も協力を頂きながら、ご利用者が安心して暮らせるよう取り組んでいきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護認定の更新手続きや月次報告等で情報を提供している	○	市町村担当との連携強化し、事業所の実態や考え方を知ってもらうよう努めていく
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	スタッフの理解が低く、万全とはいえない	○	研修に参加したり、勉強会を開くなどして、スタッフ全員が理解を深めていかなければならない
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ同士で行われていないか、日々確認している	○	ミーティング等を実施し、高齢者虐待防止関連法に関する理解や遵守に向けた取り組みを行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居契約時に、本人・家族に十分納得のいくまで説明しており、要望などを聞きながら対応している。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者・家族等からの意見や苦情不満等があった場合は、速やかに対応している</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご家族が面会に来られたとき、異変があれば常に状況を報告している。また、必要があれば、ケース記録をみていただく。不定期ではあるが、ご利用者・家族・親族におたよりを発行している</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時など気軽に職員に話せる雰囲気づくりを心がけている</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティングなどで、話し合いや意見を聞いている</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>通院・行事などで、人手がいるときに対応できるように勤務調整している</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>スタッフを固定して慣れ染みの関係(信頼関係)を一番に考え、慣れ染みの職員によるケアを心がけている</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>勉強会や研修会になるべく多くの職員が参加できるようにしている</p>	<p>○</p> <p>月1度の研修会には、できるだけ休みの職員は参加するようにしていきたい</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他事業所との交流を図るようにしている。</p>	<p>○</p> <p>地域の祭りに、他事業所の方と踊りで参加したり、勉強会を開いていきたい</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員の声を聞き、疲労やストレスの要因に気を配り、親睦の場、気分転換、気軽に話せる機会を作っている。又、職員の間人間関係を考慮し、勤務表の組み合わせを考えている。</p>	<p>○</p> <p>職員の声を日常から聞き入れるように努めている。他施設との交流の場を設け、気分転換を図れるようにしていきたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は、時々ホームに来られ、利用者とは過ごしている。介護福祉士等の資格取得</p>	<p>○</p> <p>ご利用者と過ごして頂く時間、回数を増やしていただきたい。ケアプランに基づき、どこまで目標に近づいているか話し合い実現に努めていきたい。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人の要望や困っていることを、日常の会話の中から、聞くように心がけている。受け止めるように心がけている。</p>	<p>○</p> <p>本人が困っているときは、本人の思いに向き合い、又、本人の要望や不安を把握し、職員は本人に受け入れて頂けるような関係づくりをしていく。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>気軽に相談できる雰囲気づくり。話を聞くようにしている。家族の思い、本人の思いを把握し、その思いに応えられるようにケアを心がけている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービ ス利用も含めた対応に努めている	本人の思いやご家族の思いの状況を把握して、改善に向け て必要なサービスに取り組むように努めている	○	相談された内容によっては、そのことを改善するため、必 要に応じて他のサービス機関につなげていくようにした い。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している	出来るだけ、本人・ご家族等に見学に来て頂き、ホームの雰 囲気・居室の様子などを理解してもらっている。	○	サービスの利用にいたるまで、ホームに遊びに来てもらっ たりなどして、少しでも良い関係になれるよう努力する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共に し、本人から学んだり、支えあう関係を築いて いる	日々の生活の中で、信頼関係を築き支え合う関係を築いて いる	○	ご利用者の話には耳を傾け、その方の背景なども理解し て、本人の思いをかんじとるケアに心がけている。ご利用 者は人生の先輩であるという意識を職員が共有していくよ うにする
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支え ていく関係を築いている	ご利用者に変化があれば、家族に伝え、思いや意見を聞き ながら日々のケアにつなげている。	○	家族と職員がともに本人を支える姿勢で、家族と同じ気持 ちで支援していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている	行事にはご家族を招待したり、ご家族に葉書を出すなどし て、ご家族との関わりを持って頂くようにしている。	○	行事などご家族に参加を呼びかけて、よりよい関係を継続 していけるようにしたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	友人との面会、外出、外泊などできる限り、希望に添うよう に支援している。		サービスを利用することで、今までの慣れ染みの関係が途 切れないように配慮したい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合 えるように努めている	日々のお茶や食事の時間を共にして、多くに会話を持つよ うにしている。	○	入居者同士が穏やかに暮らせるように、職員が見守り支 えていくように配慮する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを必要とする利用者や家族が現在いないため、特に何もしていないが、ご家族とは、葉書などを送ったりしている。	○	他事業所へ移られた方にも行事にきてもらったり、こちらから出掛けて行ったりしたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者と接していく中で、本人の思いや願っていることを把握して今どうしたいかを考え対応している。	○	ご家族や関係者からの情報を得て、参考にしていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活習慣を家族や本人から聞いて、これまで送ってきた暮らしの把握に努めている	○	職員が、本人や家族と慣れ染みの関係を築き、安心して過ごせるように心がけている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ご利用者一人一人の生活リズムを理解して、本人の状況を総合的に把握するようにしている。	○	本人の出来ること、わかることを発見することに努めている
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者・家族等からの意見・希望を取り入れ、介護計画を作成している。	○	家族や関係者から意見を聞き、日常生活の様子から本人本位の介護計画を作成していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	随時記録して、職員全員が共有できるようにしている。勤務前に引き継ぎを行い把握するようにしている。個別記録を基に、職員が気づいたことを、介護計画の見直しにいかしていけるように心がけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子や、本人の言動等を記録し、スタッフ全員が把握している。申し送りで情報の共有を行っている。個別記録はもとより、見直すべき事項を記入する用紙を設け、計画見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院等の支援を行っている。	○	将来的には、近隣高齢者が使用できる場所になるよう行っていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ご利用者が安心して生活していけるよう、消防機関等と連携を取り支援している	○	民生委員や警察などと意見交換する機会を設けたり、地域によるボランティアへの協力を呼びかけていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	散髪やリハビリ等のサービスが利用出来るよう支援している		今後も本人の希望に応じて、可能な範囲でサービスを利用できるよう、外部と密にコンタクトを取っていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在全く関わりがありません	○	運営推進会議等により、連携がとれるようにしていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者、ご家族が希望するかかりつけ医になっており、定期的な受診、往診、訪問看護を受けている。本人の状態によって、それに応じた医療機関に受診できるよう、家族と相談・確認している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医やかかりつけ医等、些細な事でも適切な対応を仰いでいる。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職の確保は出来ており、ご利用者の状態に応じて指示をもらい適切な対応を仰いでいる	○	ご利用者の急変にもすばやく対応できるよう、介護職側も必要な知識を身につけていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、本人に関する情報を、医療機関に提供し、スムーズな退院が出来るよう、家族も交えて話し合いを行っている。	○	医療機関、家族との連携を取りながら、本人のダメージを最小限におさえられるよう、退院への支援を行ってきたい
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の方を対象とした話し合いは、毎回のミーティングで議題に上がっており、その家族とも話し合いが出来ており、かかりつけ医の意見も取り入れられている。	○	今後もかかりつけ医や家族との密な話し合いの場を設けていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	毎回のミーティングで具体的な話し合いを行い、より良いケアを提供できるよう取り組んでいる	○	スタッフ間だけでは限りがある為、かかりつけ医との連携体制を更に密に整えていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移行先へのアセスメントや支援状況等の情報提供を行い、関係者や家族と十分話し合いを行っている	○	本人のこれまでの生活が継続できるよう、きめ細やかな部分も情報提供していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報、普段のスタッフ同士の会話の際には、周りの人に聞こえないよう小声で話すよう心掛けている	○ 話しをしていると、ため口になってしまう傾向があるので、いつでも敬う気持ちを持って接していく。目立つことのないよう、さりげなく言葉かけや対応をしている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の日常行動・表情・声かけ等において、出来ることと出来ないことを見分け、自主的判断、希望、行動を引き出すよう心掛けている	○ 利用者の意思表示に関する情報のスタッフ間での共有
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気の良い日には、散歩に行ったり、買い物などに行ったりと地域の方とのふれあいを大切にしている。その日の気分・体調により、入浴、食事の声かけなど行っている。	○ 利用者自身をよく理解して、一日の行動をしっかり把握していきたい。時々、決まりを押しつけているような気がする。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	服装・美容などは、本人の好みにより行っているが、自己表出できない利用者の方には、スタッフの判断・誘導によることが多い。	○ 利用者一人一人の個性を引き出すおしゃれを見つけ出していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には、お盆だし、箸出し、よそった食器を並べていただいたりしている。必要とされていることの意識を持っていただく。栄養バランスのある手作りの物を作る。初物など食材についての話題は提供などしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人一人の嗜好を把握し、好まれる物を提供している。自立されている方には、スタッフが一緒に買い物について行く。	○ 行動等の時に普段飲めないような物を(コーヒー、紅茶など)預けるようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿取りパッドのみ使用している方も数名おられるが、声かけを行い失禁のないよう対応している。	○	時間をみながら声かけしていても、時に失禁されている場合があり反省する。ケア中心になるように心掛けたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日バイタルチェック行い、体調・気分等、ご本人とコミュニケーションを取り入浴施行している。入浴拒否された場合は、無理せず翌日に延ばしたり、清拭を行ったりしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の生活リズムに合わせて、休息をしたり居室でゆっくり休んでいただくよう声かけを行っている。	○	夜は殆ど利用者の方は取れているが、時々眠れない時の対応については、今後考えていかなければならない。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者の得意な事や、出来ること等声かけし、スタッフと一緒に活動している。積極的に活動される方には、感謝している。	○	ご利用者個人差があり、様々な取り組みに消極的な方への誘いや促しがまだ足りていない。今後の課題である
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人差があり、ご利用者全員ではないが、自分で(スタッフ同行)買い物する喜びや満足感等は得られている。全く所持出来ない方については、家族の許可をもとに、スタッフ同行し、希望される品を買ってもらう支援を行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩を兼ねて、スタッフと買い物に行ったり、ドライブに行っている。個人個人の担当者が外出(お出かけ)も行っている。	○	尿意の心配や乗り物酔いの心配から、外出を控えたり、消極的になりがちの方への支援をもう少し工夫したい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の希望に応じて、買い物、食事、ドライブ等出掛けている	○	利用者への外出への心配を無くして、安心して出掛けられるような支援をしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかける支援を行っている。手紙のやり取りも希望があれば、支援を行っている。部屋に電話(携帯電話)がある方でも、希望があれば電話を使用していただいている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や、友人等の訪問に対しては、時間を決めることなく、いつでも訪問していただいている。	○	自然な形で挨拶、笑顔で訪問者を迎え入れる。くつろげる雰囲気や環境づくり。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。職員同士が気づいたことを話し合う。身体拘束をしないケアを行っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけていない。外へ出て行かれようとしたら、止めることはしないで、さりげなく声かけを行う。出て行く気配を職員が見落とさないように、見守りを行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	全員の状況を把握でき、見守りが出来る場所で、記録を書く。夜間帯は、必ず数時間毎に巡視を行う。	○	スタッフ間のチームワークを良くし、利用者の安全に配慮していきたい。利用者のプライバシーに配慮し、利用者の状況を把握していった。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況により注意を促したり、保管したり、個々に合った対応を行っている。	○	利用者の状況を十分把握しながら、危険防止に取り組んでいく。又、今出来ていたことが出来なくなってしまう可能性をいつでも念頭において見守りを行う。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者一人一人の精神状況、身体状況を把握し、事故が起こらないようにしている。事故が起こった場合は、事故報告書を作成し、家族に報告している。職員同士共通の認識を持ちケアにあたっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	各利用者の情報(医療機関、病名、主治医、家族連絡先等)をカードにして、スピーディーな対応ができるようにわかりやすいところに置いている。	○	究明救急法の講習、実施訓練の機会を作っていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は定期的に行う。連絡網の整備は出来ている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人一人のリスクについては、理解していただき、日常の様子は都度知らせている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックは毎日行い、確認フォローはしている。申し送り記録等を通し、詳細に伝達出来るように努めている。	○	一人一人の病名、症状、状態について、理解を深めるよう勉強会等をしていく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関からの薬情報は、所定の所に置き、共有している。服薬確認は、一人一人確実にしている。	○	73と同じで、勉強会をしていく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック、便の性状の観察を行い、水分補給、運動等心掛けている。主治医に相談する	○	食べ物と便秘の関係や便秘についての勉強会をしていく。一人一人の生活習慣を把握する
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯科検診(往診)にて、一人一人の状態チェックを受け、個人に合ったケアを行う。毎食後のケアを行い、必要時歯科受診している。	○	口腔ケアについて、専門家の講習を予定している。特に認知症の人の口腔ケアの難しさを痛感している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量のチェックや内容バランスを確認し、問題ある時は検診している。一杯目のお茶はノルマ制にするとか、暖房時の対策など注意し、声かけを十分に行っている。	○	高齢者の体や食事についての理解を深めていく(勉強会、研修等)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種を受ける(利用者、スタッフ共に)。診療情報のチェック・把握する。手洗い、うがいの励行(利用者、スタッフ共に)。施設全体の衛生管理	○	マニュアルが建前にならないように努めていく。スタッフの個人衛生管理を再確認していく。利用者一人ひとりの小さな変化にも気づき、見逃さないようケアをめざしていく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、食器類は高熱(乾燥機)や次亜塩素酸系薬剤での消毒を都度または適宜行っている。食材管理は、都度都度の買い物、点検などでできている。手洗い消毒は行っている(利用者、スタッフ共に)台所内外の整理整頓、清掃は場所毎に週1回は必ずできるよう勤務体制に取り入れてある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周辺(内外)は季節に合わせた置物飾り物、生け花などが配慮されており、暖かい雰囲気である。建物の色合いもよく玄関の出入りもしやすい	○	玄関先は風当たりが強いので、何らかの工夫ができないものかと感じている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールはもう少し広く、ゆったりしている方がよい、廊下は常に電灯が必要。光彩方向とテレビの位置が合わない。流し台は対面式がよくトイレの場所もどうか?	○	左記のごとく、建物上の不具合を感じていることが多い中、少しでも改善工夫を重ね、居心地よい生活空間にしていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	このことについての配慮はあまりされていない。	○	今後は、創意工夫を重ね一家族としてのゆったりとした共有空間づくりをする必要がある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には条件は満たしている。居室ではご本人、ご家族(面会の方含)はゆったりしていただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	一人一人の状況に合わせて行っている。特にポータブルトイレ使用の居室などは、清掃・洗浄などはこまめに行っている。	○	トイレの消臭に関して、いろいろ工夫を重ねているが、一進一退あり、今後も重ねていく
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ハード面の整備はためされている。家具等の配置も配慮検討はしている。ソフト面は、声かけ、見守り、誘導等にて安全を図る。	○	居室内での不慮の事故防止についての取り組みについて検討していく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	メンタルケアを行い、気持ちの安定を図ったり、自発性を引き出せるような対応を心掛けている(ミーティング等にて検討する)	○	認知症を理解する
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭先にホールにつながる通路があるので、一緒に歩いたり、作業を行ったりしている。団らんを組んで歌ったり、日当ぼっこしたりしている	○	団らんの場をもっと作っていく。菜園、花作りなどしていきたい。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「介護とは死にゆく人との付き合い方、見送り方」の視点から、メンタルケアを基調に身体的介護のみでなく、メンタル面のフォローをしながらひとりの方が一日一回以上は笑う事をあえてプラン化し、共に年齢を重ねていこうという取り組みをはじめている。